

山武の



普及だより

山武農業事務所

山武農林業振興普及協議会

〒283-0005 千葉県東金市田間2-14-2

☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/index.html>

# 選果機更新で施設野菜産地の更なる発展!

## ～第一集出荷センターの新たな選果機が稼働を開始～



写真2 導入が進む炭酸ガス発生装置(右)及び環境モニタリング装置(左)

写真1 新たな選果機を装備した施設の様子

### ▼選果機更新の契機及び概要

#### 契機及び概要

J A山武郡市第一集出荷センター(九十九里町)では、きゅうり、なす及びトマトの共選・共販を行っています。平成3年にトマト・きゅうり、平成4年になすの選果機が導入されましたが、長年の稼働により、選果機の老朽化が進んでいました。そのため、今年度、国庫補助事業の「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用して、きゅうり及びなすの選果機の更新工事を行います。稼働の開始が予定されています。

共同選果場は、施設野菜経営にとって出荷調製作業時間を軽減でき、欠くことが出来ない施設となっております。また、新たな選果機には、AIを用いた選別カメラが搭載され、より正確で効率的な選果を行うことができます。今後は、市場の要望にきめ細かな対応が可能な出荷体制を作り、高品質で安定的な出荷・

販売を目指します。

### ▼選果機更新による産地の発展

平成26年頃から、第一集出荷センター施設部会では、越冬きゅうり栽培において、環境制御技術を導入する生産者が徐々に増加しています。環境制御技術とは、作物の栽培で重要な光・温度・湿度・二酸化炭素濃度などの環境要因を測定、データ化し、生育に適した状態に調整することです。これにより作物の光合成速度を最大限に高めて生長を促進させ、収穫量を上げます。

また、生産者同士が環境制御技術を学び合い、情報交換を行うことで、環境制御技術の早期習得を目指すために、2つの学習組織が活動しています。今回、新たな選果機が導入されたことを契機に、今後さらに環境制御技術の考え方を生産者に波及させ、生産効率と所得の向上を目指し、産地と生産者の支援を行います。

# 飼料用米の多収栽培のポイント

近年の米価下落や消費量の減少の中で安定した経営を行うには需要に応じた生産を行うべく必要があります。山武管内では飼料用米の作付面積が増加傾向にあります。助成金の一部は収量により支給金額が変化するため、多収を目指し、経営安定につなげましょう。飼料用米で多収を確保するための栽培ポイントを紹介します。

**▼浸種**  
飼料用米品種も主食用米品種と同様に浸種温度に注意が必要です。低い水温は出芽不良の原因となるため、温度管理を徹底しましょう。水温は10〜15℃で行います。

**▼播種**  
播種量は品種によって異なります。10a当たりの苗箱数が慣行の18箱前後の場合、代表的な飼料用米品種の「アキヒカリ」は乾籾140g、「夢あおば」

表 主要な飼料用米の10a当たりの窒素量

品種名	アキヒカリ	夢あおば	ちば28号 (ふさこがね)
基肥	6kg (壤質土)	9kg (壤質土)	5~6kg (壤質土)
窒素	9kg (砂質土)	12kg (砂質土)	6~7kg (砂質土)
穂肥	3kg		
窒素			

(注) 山武地域における土性の分布は下図参照

は乾籾160g、「ちば28号(ふさこがね)」は乾籾150〜160gです。  
**▼施肥**  
主食用米品種より多く肥料(窒素)を施用することで多収が期待できます。

表の施肥量を参考に、施肥を行いましょ。また、出穂期以降も葉色を濃く保てるよう適期に追肥を行いましょ。

**▼移植**  
飼料用米品種は耐冷性に弱い品種が多いです。4月に移植すると冷害が発生しやすくなるため、5月上旬以降に移植しましょ。しかし、4〜5月の育苗はハウス内の温度が上がりやすいため注意が必要です。

**▼中干し**  
玄米の品質を求めない飼料用米では、主食用米ほど強度の中干しは必要ありません。ただし、生育が過剰な場合はしっかりと中干しを行いましょ。

**▼病害虫防除**

飼料用米の検査基準は主食用米と異なりますが、斑点米カメムシ類の防除を怠ると斑点米カメムシ類の発生

源となり、周囲の主食用米ほ場に影響がでる可能性があります。主食用米同様に適期に防除を行いましょ。

**▼収穫・調製**  
飼料用米収穫時にコンバインへの負荷が心配される場合は、刈り取り速度を下げた収穫しましょ。主食用米と異なり、品質を考慮する必要がないため、乾燥時の温度を上げて効率よく乾燥することもできます。また、収穫を遅らせて立毛乾燥させることで、乾燥コスト低減に繋がります。



図 山武地域における土性の分布

(注) 千葉県耕地土壌情報データベースに基づいて作図



# 春ねぎ・夏ねぎのべと病対策

ねぎのべと病は多湿で涼しい（平均気温15～20℃）気象条件で発生し、春ねぎや夏ねぎに多発しやすいため、防除をしつかり行う必要があります。防除のポイントを以下に示します。

## ▼粒剤を活用する

ユニフォーム粒剤はべと病に対し優れた予防効果があります。収穫45日前まで使用でき、夏ねぎのトンネル被覆除去後にも使用可能です（4月下旬～5月上旬収穫の夏ねぎは被覆除去から収穫までの日数が短いので散布時期に注意）。土寄せ時に株元に施用します。

## ▼薬剤の予防散布

2月下旬～6月下旬は予防のため薬剤散布が必要です。特に降雨の後、霧・もやが出たときや、夜露が葉に付くときは発生しやすいため、薬剤散布を行ってください。同系統（表のFRACコードが同じ）の薬剤の連

用は避けてください。

▼発病後は治療効果の高い薬剤  
発病初期に、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等の治療効果の高い薬剤を散布し、被害拡大を防ぎます。

▼展着剤を加用し散布量は多め  
薬剤散布時には、ドライバークやまくぴか等の濡れ性に優れた展着剤を加用します。薬液の散布量は登録内容の範囲内で多めにしてください。

表 ねぎのべと病に使用する主な薬剤例（令和3年12月13日時点）

薬剤名	FRACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
ピシロックフロアブル	U17	1000	収穫前日まで	3回以内
アミスター20フロアブル	11	2000	収穫3日前まで	4回以内
ダイナモ顆粒水和剤	21,27	2000	収穫3日前まで	4回以内
オロンディスウルトラSC	49,40	2000	収穫7日前まで	2回以内
プロポーズ顆粒水和剤	40,M5	1000	収穫14日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	4,M3	1000	収穫14日前まで	3回以内

※薬剤は製品ラベルに記載の登録内容に従って使用してください。

# とうもろこしの新たな奨励品種

千葉県のとうもろこしは全国トップクラスの産出額を誇り、山武地域は県内の主要な産地です。近年は3月～4月播種の作型で、先端不稔の増加や上位等級の割合の減少等が問題となっており、より安定して発芽し収量が期待できる品種が求められています。

農業事務所とJA山武郡市とうもろこし部会は毎年合同で品種比較試験を実施しています。今年度は5品種を試験し、「SK4-117」と「サニーショコラライラ」の2品種が、発芽率や重さ、先端不稔の少なさで良好な成績を収めました。これを受けとうもろこし部会では、次作からこれら2品種を新たに奨励品種に加えることを決定しています。  
今後は、試験結果を活用し、安定したとうもろこし生産が期待されます。

# 文化の日千葉県功労者表彰を受賞されました

11月3日に令和3年文化の日千葉県功労者表彰が行われ、山武地区の生産者及び生産者団体が表彰されました。

## ○鈴木 和子 氏（山武市）

食と農の体験工房「よもぎかん」を経営し、体験型農業による食育の取組が評価されました。



鈴木 和子 氏

## ○山武市成東観光苺組合

消費者視点での観光苺や、産地の発展を視野に入れた後継者確保等の活動が評価されました。



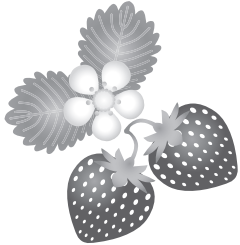
山武市成東観光苺組合  
（中村隆幸組合長）

### 令和3年度に認証された 千葉県指導農業者士・ 農業者士の紹介

千葉県では、優れた農業経営を実践し、農業後継者の育成に熱意のある農業者を「指導農業者士」として、また、地域農業の担い手である優れた青年農業者を「農業者士」として認証しています。今年度、山武地域からは、指導農業者士として3名、農業者士として3名が認証されました。

指導農業者士、農業者士は、地元のリーダーとして、地域農業の振興に大きく貢献しており、その役割は益々重要になっています。

県では、会員の経営改善及び相互の交流を目的とした研修等の実施により、広くネットワークを築けるよう支援してまいります。



### 【指導農業者士】

○**廣口 芳治氏** (山武市)  
ひろぐち よしはる



いちごの觀光摘み取りと直売を組み合わせた経営を行っています。多品種の栽培法を研究し、持続性の高い農業に尽力されています。

○**板倉小百合氏** (大網白里市)  
いたくらさゆり



露地野菜と施設野菜の長期複数品目の出荷に取り組んでいます。農業研修生等を積極的に受け入れ、担い手の育成に尽力されています。

○**山崎 義則氏** (横芝光町)  
やまざき よしのり



水稲とねぎの複合経営を行っています。法人経営により、研修生や若手雇用者を受け入れ、担い手育成に尽力されています。

### 【農業者士】

○**川面 雅典氏** (山武市)  
かわづら まさのり



多品種促成栽培による觀光いちご園と直売所を経営しています。天敵資材を導入するなど環境にやさしい農業を実践しています。

○**桑田 健二氏** (大網白里市)  
くわた けんじ



ねぎ専作経営を行っています。研修生や雇用を導入し、「プレミアム夏ねぎ」の生産に力を入れています。

○**浅野 英昭氏** (横芝光町)  
あさの ひであき



いちごの直売と水稲の複合経営を行っています。「道の駅風和里しばやま」や、SNSを活用した多様な販売に取り組んでいます。

### 新規就農者向け 農業技術・経営基礎研修 参加者募集

農業事務所では、新規就農者(概ね45歳以下)を対象とした3年間の基礎研修(農業経営体育成セミナー、令和4年5月開講予定)の受講生を募集しています。

年間10回程度の講義・実習・視察研修と、在宅研修を組み合わせて行い、在宅研修では研修生ごとに担当の普及員が付き、就業状況に応じた研修を行います。

**「サンスマイル山武農業女子ネット」の活動に参加しませんか**

女性農業者組織「サンスマイル山武農業女子ネット」では、女性農業者の主體的な経営参画と所得の向上、女性が活躍できる地域づくりを目指し、積極的な活動を行っています。活動に関心のある方は、農業事務所まで御連絡ください。

**右記研修・活動の申込み先**  
山武農業事務所 改良普及課  
Tel 0475(54)02226